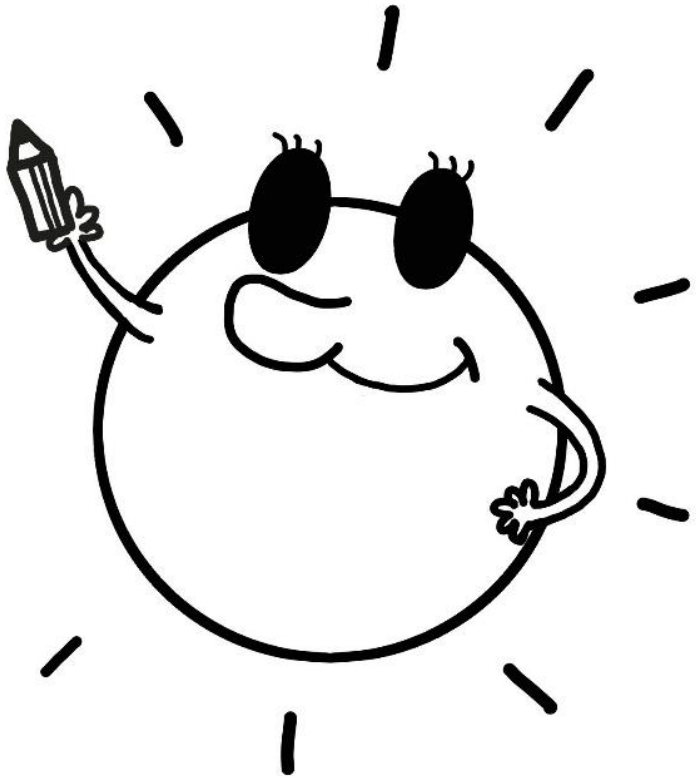
令和８年度

第２回　進路説明会



三鷹の森学園　三鷹市立第三中学校

令和８年10月19日(月)

保護者・生徒兼用資料

３年　　組　　番　氏名

目　次

１　具体的な進路選択にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１～４
２　私立高校の入試について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５～６
（１）入試日程
（２）推薦入試について
（３）一般入試について
（４）入試相談について
（５）私立高校を受験するにあたっての注意点

３　高等専修学校、通信制高等学校の入試について・・・・・・・・・・・・７

４　都立高校の入試について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８～１１
（１）今年度の都立入試の主な変更点
（２）入試日程
（３）推薦に基づく入試
（４）推薦に基づく入試の注意点
（５）学力検査に基づく選抜（第一次・分割前期）
（６）志願変更について（取り下げ・再提出）
（７）学力検査に基づく選抜（第二次・分割後期）
（８）学力に基づく選抜に関する注意点
（９）追検査について

５　特別支援学校高等部の入学相談及び入学者選考について・・・・・・・１２

６　本校の推薦基準・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２

７　今後の動き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３～１４
（１）スケジュール
（２）諸活動の記録について
（３）その他必要書類
８　まとめ・進路決定に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５

資料１　第４回進路希望調査（見本）　・・・・・・・・・・・・・・・・１６～１７
資料２　諸活動の記録／氏名・住所の確認（見本）　・・・・・・・・・１８～２１
資料３　私立推薦依頼書（見本）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２２
資料４　調査書作成願い（見本）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２３
資料５　インターネット出願の手順・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

Ⅰ　具体的な進路選択にあたって

（１）志望校選びのポイントの確認

①「これからの人生をどう生きていきたいのか」という視点

受験勉強をするうちに、「合格すること」がゴールになってしまっていませんか。入学後の学校生活や、その先の進路等、「これからの人生をどう生きていきたいのか」という視点も踏まえて進路選択を行ってください。特に、以下の三つの点について再度考えてみましょう。

・自分が将来希望する職業に就くために、望ましい進路先を選ぼうとしていますか？
・自分の能力・適正・興味等を十分に踏まえていますか？
・自分が期待している上級学校での生活を送れる見通しをもっていますか？

② 進路先の調査は十分に

希望の進路先へ進んだとしても、その進路先での日々を全うできず、他の道を探す状況に陥ってしまうことがあります。これは「進路変更」や「学校生活の不振」によるものが多いです。もちろん、どんなに緻密な準備や調査をしていたとしても、実際に入ってみて分かることもあります。しかし、入念な準備を行うことで、その違いを減らすこともできます。「自分が考えていた学校生活とは違う」と感じて入学後に葛藤することが無いように、学校説明会や体験授業などに積極的に参加してみましょう。

～志望校選びの視点～

その進路先でどのような毎日を過ごそうとしているのか、よく考えてみましょう。例えば、部活動に熱中したいのか、学校行事に燃えたいのか、先の大学進学に備えたいのか、といったところを、ポイントを絞って見てみると具体的なイメージが湧きやすいです。

「第１回進路説明会資料」の「学校見学のポイント」と重なる点は多いですが、以下に志望校選びの視点を載せておきます。

①所要時間

高等学校であれば３年間通うことになるので、事前に公共交通手段をしっかり調べ、実際にその方法で向かってみましょう。毎日のこととなると、自転車なのか電車・バスなのか、その距離やかかる時間等も重要です。通信制高校も、登校することが定められている日があります。学校までにかかる時間をしっかりと確認しましょう。

②学校の雰囲気

校風や生徒の気質について、自分の性格と合っているかを見極めるのは非常に重要なポイントです。教育方針や実際に通っている生徒の様子、行事、部活動、環境など、様々なことが見極めのポイントになってきます。

③設備や環境

自分の希望する学科やコースの学習設備や周辺の環境も見ておきましょう。（校庭・体育館・教室・図書館・トイレ・自習室・学食など）「毎日の昼食をどうするか」も大事なポイントです。学校周辺の環境も重要になります。

④入試制度や学費

生徒・保護者対象の説明会では、入試の要項や学費に関する資料が配られるはずです。入試制度も学費も学校によって様々なので、資料は必ず確認しましょう。授業料については、都立高校は全額、私立高校は平均額助成されます。

→続く

⑤進路・就職の状況

高等学校卒業後の進路状況を確認しておきましょう。進学先や就職先、進学と就職の割合等、３年後の進路選択を見据えて情報を集めましょう。また、大学への指定校推薦があるのか、大学附属の高校は、何割くらいの生徒が附属の大学に進学できるのか、といったところも確認しておくとよいです。

また、夏の面談等を踏まえ、以下の視点も合わせて検討しましょう。

★　成績「も」考えて志望校を選ぶ

多くの生徒は様々な資料等から、どの程度の学力があればその学校に合格できそうかということも把握し始めています。しかし、高校が求める学力と自分の実力とに大きな開きがある高校を志望校としている場合もあります。目標が高ければ高いほど、自分の実力に見合った「第二志望」の学校をしっかり選んでおくことが必要になります。第二志望の候補が挙がったら必ず訪問し、自分の目で見てその学校の雰囲気を確かめてくることが大切です。

★　成績「だけ」、名前「だけ」で選んでしまっていないか？

「この成績ならこの学校」、「ひとつでもレベルが上の学校」などと成績だけで学校を選ぼうとする様子や、「○○高校といえば名門」、「△△高校って聞いたことがない」など高校の名前のイメージで判断している様子も見られます。また、「誰かにこう言われたから」と、自分の意志ではなく人の言葉に大きな影響を受けて進路選択しているようなこともよくあります。

「苦労して入ったのは良いけれど、勉強のスピードが速くてついていけない」、「専門学科にしたけれど、自分の学びたいことではなかった」などの理由で高校生活が続けられなくなってしまう人もいます。自分が志望している学校は一体どのような学校なのか、あらゆる角度から検討してみることが大切です。

★　学費についても要検討

中学３年生となれば、そろそろ家族の一員として、自分にかかる「学費」について考えられる年齢ではないでしょうか。いくらかかるのか、何か手立てがあるのか等、視野を広げて検討をしてみてください。また、授業料の補助の関係で私立高校を選びやすくはなっていますが、私立高校と都立高校の良さはそれぞれあります。その進路先にしかない良さをしっかりと理解し、進路選択を行いましょう。

（２）実際に受験する学校の選び方

STEP １ 自分が行きたい！と思う学校のイメージを具体化する。

【例】・通学時間はどのくらいまでを目安にするのか？（片道30分？１時間？）
・交通手段は？（自転車？バス？電車？　電車を利用するなら上り？下り？）
・公立か私立か？（男子校・女子校・共学校？）
・どんな校風の学校か？（落ち着いている？活発？自由？管理型？）
・卒業後の進路は？（大学進学を目指す？専門に学んだことを生かして就職？）
・どのようなスタイルで学びたいか？（全日制？　定時制？　通信制？）

★条件に合う学校を、インターネットや市販の「受験案内」冊子（学校図書館や各教室にも置いてあります）、パンフレットなどの資料により複数校探し出しましょう。（都立高校であれば「だから都立高」というサイトで検索可能。都立高校学校魅力 PR 動画「まなびゅ～動画」も参考になります。私立高校も、インターネットで条件を入力すれば都内の学校を検索できます。）

★ 具体的な学校名が出てきたら見学に行きましょう。「実際に３年間通えるのか」、「本人に校風が合っていそうか」などを一緒に話しながら、保護者の方とともに検討していきます。

★一校だけでなく、複数校確認することが大切です。最初に行った学校の印象が良いと、それ以外の学校を印象だけで判断してしまうこともあります。見学の際は冷静かつ多角的に検討してみてください。

STEP ２ 志望する学校の学力や倍率をチェックする。

STEP １ で挙げた学校について、学力や倍率等の情報についても確認しましょう。

★試験当日に体調が悪く十分な力が発揮できないということも考えられます。このときの模試では取れたから……と自分の実力を過信し過ぎないようにしましょう。

★自分の学力の状況や評定で十分に合格できそうな学校は必ず見つけておきましょう。第一志望校に対して現状の学力が見合わない場合も、併願優遇制度等で合格を見込める学校を作っておくと、安心して第一志望校に挑戦することができます。

★学力だけで学校を決めることにならないように、必ず STEP１ の内容と合わせて、自分が行きたいと思える学校かどうか検討するようにしてください。

STEP ３ 実際に受験する学校の組み合わせを考える。

★ 都立高校は推薦・一般各１校しか受けられません。

★ 都内の私立高校は入試日が３日間に集中しています。(２月 10 日～12 日)
１日に１校しか受けられないので、２校以上受験することを考えている場合は、試験日をよく調べ、組み合わせを考えてください。

【受験の基本的なパターンの例】下記以外のパターンもご相談ください。

パターン	内　容
パターンＡ　都立のみ	第１：都立（推薦）第２：都立（一般）
パターンＢ　①都立　②私立	第１：都立（一般）第２：私立（併願優遇）
パターンＣ　私立のみ	第１：私立（推薦）
パターンＤ　私立のみ	第１：私立（第一志望）第２：私立（併願優遇）
パターンＥ　①私立　②都立	第１：私立（一般）第２：都立（一般）

（３）来週からはじまる三者面談にあたって…

いよいよ来週から第２回三者面談が始まります。面談のねらいは以下の通りです。

①進路先の検討を通して、よりよい進路選択につなげる。

②第１志望・第２志望校や私立高校の受験形態（推薦・第一志望優遇制度・併願優遇制度・一般）、入試相談を受ける学校の検討を通して、具体的な準備や取組について共有する。

以前の進路だよりでも載せたように、今回の三者面談では、以下の内容を自分の言葉で話せるようになっておいてほしいと思っています。ポイントを参考に、自分の進路先について具体的に情報を調べておきましょう。

進路だより第６号（7 月 16 日発行）から

～10 月の三者面談で言えるように　なってほしい内容～

例
第１志望は●立●●高校の普通科を一般受験したいです。
９ 月の学校説明会に参加したのですが、……というところが気に入りました。
通学時間は電車で片道●分くらいになりそうです。
学力的にはまだ少し難しい状況です。評定は●ポイント必要なので、現時点では足りません。復習確認テストなどの点数も、平均で●点ずつ取りたいです。国語が苦手なので、古典を中心に頑張ります。
第１志望が挑戦になるので、第２志望として私立●●高校の進学コースを、併願優遇制度を使って受験したいです。８月の初めに学校説明会に参加し、個別相談も受けました。
出願の条件は５教科評定で●ポイントです。英検３級で＋１ポイントもらえるので、1 学期の成績を維持できればクリアできそうです。

ポイント 以下のような項目を押さえて準備しよう！

・まず第１志望のこと
（都立か私立か国立か／科とコースは／推薦か一般か）等
・説明会に行ったか。
・なぜその学校に行きたいのか。
・通学時間はどうか。
・今の学力と照らし合わせてどうか。
・どうすれば合格ライン／受験できるラインに達することができるか。
・第２志望以降の学校についてもどの科・コースを受験するのか等
・私立ならどんな制度を使って受験するのか。
・個別相談でどのようなことを言われたか。
・１学期の時点で推薦／併願が可能な評定があるのか。

2　私立高校の入試について

（1）入試日程

私立高校の入試は、推薦・一般ともに都立入試よりも早く実施されます。都内の私立高校の多くで、推薦入試は1月 22 日以降、一般入試は2月 10 日以降に開始となりますが、詳しい入試日程は各校が独自に設定しているため、個別の確認が必要となります。

（2）推薦入試について　（第1回進路説明会資料p8、11に掲載）入試相談が必要

推薦入試は、『原則として在籍している中学校長の推薦があり、合格したら必ず入学することを条件に、面接・作文・適性検査などで選抜試験を受けることができる制度』です。

- ○ 生徒、保護者ともに、志望する高等学校の教育方針や校風などを理解し、その高校を第一志望とし、求められる資格・基準・条件を満たしていることが前提となります。
- ○ 中学校長による推薦となるため、人物、生活態度、学力及び学習への取組について、その生徒が推薦に値すると判断できる状態であることを前提としています。(参考：本資料p12「本校の推薦基準」)
- ○ 推薦入試を希望する場合は、校内の推薦委員会で審査します。
- ○ 推薦入試決定後、生活の乱れや学習意欲の低下などがないよう、生活面・学習面などにおいてさらに自覚をもって過ごすことが必要です。
- ○ 多くの私立高校では 10 月から 11 月頃までに、入試要項や学校説明会において推薦基準（内申基準や欠席日数の基準等）を公表しています。
- ○ 基準に足りない場合でも、英検3級の資格を有していれば1点を加点するなど、資格や生徒会活動、部活動での活躍などを加点評価する学校もあります。
- ○ 推薦基準に達していても、推薦基準を「出願基準」として扱い、当日の適性検査の結果や調査書点を総合的に判断して不合格とする学校もあります。
- ○ 推薦入試を、一般推薦入試、スポーツ推薦入試などのように、区分けして実施している学校もあります。
- ○ 推薦入試制度を利用して合格した場合は、合格後の入学の辞退や他校の受験は一切できません。
- ○ 推薦入試が不合格だった場合、一般入試を受けることができます。

（3）一般入試について（第1回進路説明会資料p11～12に掲載）

【 優遇制度を利用する 】入試相談が必要

- ○ 第一志望優遇制度：合格した場合必ず入学することを条件に優遇されます。優遇のための基準の有無は学校によるので注意が必要です。
- ○ 併願優遇制度：他校を第一希望とするが、そこが不合格だった場合に入学することを条件に優遇されます。公立併願の高校が多いですが、私立併願を可としている学校もあります。※なお、求められる評定基準は単願推薦より高くなります。

【 優遇制度を利用しない 】入試相談は不要

- ○ 一般受験（いわゆる「フリー受験」）→次ページに続く

＊出願するための基準は特にない場合が多いです。
＊受験日が重ならなければ、何校でも受験することができます。
＊都立高校が第一希望の場合に延納届を提出することで、都立高校の合格発表日まで入学手続きの期日を延長してくれる学校もあります。

（４）入試相談について

「推薦入試」や「一般入試で優遇を受けて受験」する場合、基本的に「入試相談」が必要となります。

○ 入試相談とは：中学校と高等学校との間で行われる事前相談です。中学校の教員が生徒の受験するそれぞれの私立高校に指定された成績関係の資料を提出することにより、受験する生徒の合格の可能性について事前に相談します。ただし、合格の確約や内定を出すことはありません。多くの場合 12 月 15 日が入試相談日となっています。

○ 入試相談を希望する場合：現段階で決定していれば、第３回進路希望調査（配布済み）に推薦入試・一般入試で優遇を受けたい希望（入試相談の希望）を記入し、10 月の三者面談で担任に伝えてください。未定の場合は、決まり次第担任に伝えてください。推薦入試・第一志望優遇制度・併願優遇制度については、後述する中学校への「依頼書」の提出が必要です。12 月の三者面談でお渡しし、翌日に提出していただきます。

○ 入試相談後の注意点：入試相談を経て書類が受理された場合、必ず出願して受験することになります。入試相談後のコース変更や受験取り止めなどはできません。都立高校が第一希望で併願優遇を受けた場合、都立高校不合格の際には併願優遇先の高等学校に入学手続きをすることになります。（この場合、<u>都立高校二次募集には応募できません</u>。）

（５）私立高校を受験するにあたっての注意点

○ 私立高校は都立高校と違い、入試日程、基準や選抜方法など各学校が独自に設定しているため、学校説明会や募集要項での確認が必要です。
○ 入試相談を利用しようと考えている学校は必ず説明会や個別相談に参加してください。（個別相談が出願の条件になっている場合があります。）
○ 募集要項には、受験に必要な入学願書や各種書類（中学校教員が作成するものの原本など）が同封されています。受験者が自分でその学校に出向くか、HP からダウンロードすることで入手（購入）します。受験校が決定したらすぐに手配しておくと良いです。
○ 募集要項を入手したらまずは必要書類の確認をし、細部にわたってよく読み、手続き全般について、受験する生徒自身も保護者の方も理解しておいてください。（延納願いに中学校の印が必要な場合もあります）
○ ウェブ出願の学校が多いので、出願サイトの確認を事前に行っておくと安心です。

３　高等専修学校、通信制高等学校の入試について

○　高等専修学校

高等専修学校（専修学校高等課程）は、中学校卒業者を対象に実務面に重点をおいた教育を行っています。最近では修了年限が３年以上の専修学校の中に、通信制高等学校と提携することで、卒業と同時に高等学校卒業資格が得られる学校も増えています。その場合、専修学校の授業料とは別に通信制高等学校の授業料も必要となります。

【 推薦入試 】早い学校では出願が始まっています。本人のその学校に対する意欲が問われ、その職業に対する意欲・情熱、体験授業への参加の有無などが評価されます。入学金等の延納はなく、合格したら必ず進学することが条件となります。

【 一般入試 】

早い学校では出願が始まっています。入学試験は、面接・作文の他に学力試験を実施する学校もあります。併願優遇の制度がある学校もありますが、延納の手続きが可能かどうかは説明会などで確認する必要があります。

○　通信制高等学校

通信制高等学校は通信制課程の内容に準じて運営をしている高等学校です。進学を希望する場合は、学校見学などによってその学校の特徴や、教育のシステムをよく理解することが重要です。通学日数が選択できる学校も増えています。立地なども含め説明会などで確認が必要です。併願優遇制度また就学支援金が適用になる学校もあります。詳しくは夏休み中に実施した「通信制高校等説明会」の資料を参考にしてください。お声かけいただければご希望の方にお渡しします。

４　都立高校の入試について

都立高校についての説明は、『令和９年度　東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ』（７月配布済み）と、『令和９年度　東京都立高等学校募集案内』(11 月配布予定)をご覧ください。詳細な内容については、東京都教育委員会の HP に掲載されている「令和９年度　東京都立高等学校入学者選抜実施要綱」をご覧ください。進路コーナーにも配置してあります。

（ https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2026/09/20260917 03）

（１）今年度の都立入試の主な変更点

①国際高等学校のバカロレアコースの入学者選抜について、９月入学生徒の選抜を廃止し、４月入学生徒の選抜のみを実施する。

②学力検査の得点と調査書点の比率について７：３と 10：０の両方の方法で算出しどちらか高い方を本人の得点として選抜する選抜方法を、新たに２校（武蔵野北高校・北園高校）の高等学校全日制課程普通科で実施する。

（２）入試日程（全日制）

	出願	検査日（実技・学力）	合格発表
推薦	インターネットを活用した出願 【志願者情報入力期間】 令和８年 12 月 18 日(金)～ 令和９年　１月 18 日(月)午後５時 【書類提出期間】 令和９年１月８日（金）～18 日（月） ＊調査書は 中学校から郵送	令和９年１月 26 日(火) １月 27 日(水) 個人面接、集団討論、実技検査等	令和９年２月２日（火） 出願サイト上で 午前８時 30 分～ 高校校内掲示 午前９時 30 分～
第一次募集・分割前期募集	インターネットを活用した出願 【志願者情報入力期間】 令和８年 12 月 18 日(金)～ 令和９年　２月 ４日(木)午後５時 【書類提出期間】 令和９年　１月 29 日（金）～ ２月４日（木） ＊調査書は 中学校から郵送 取り下げ　令和９年２月 10 日（水） 再提出　令和９年２月 12 日（金）	令和９年２月 21 日(日) 学力検査 【通信制高校は令和９年２月 22 日（月）】	令和９年３月１日（月） 出願サイト上で 午前８時 30 分～ 高校校内掲示 午前９時 30 分～
分割後期募集・第二次募集	出　願　令和９年３月 ４日（木） 取り下げ　令和９年３月 ５日（金） 再提出　令和９年３月 ８日（月）	令和９年３月９日（火）	令和９年３月 12 日(金)

（３）推薦に基づく入試

【推薦入試の目的】
　基礎的な学力を前提に、思考力、判断力、表現力などの課題を解決するためのカや、自分の考えを相手に的確に伝えるとともに、相手の考えを的確に捉え人間関係を構築するためのコミュニケーション能力など、これからの社会にあって生徒たちに必要となる力を評価し、選抜する。

【応募資格】
○　令和８年 12 月 31 日現在、都内在住で都内の中学校に在学していて、入学後も引き続き都内に在住し、令和９年３月に都内の中学校を卒業する見込みの生徒。
○　**志願する都立高校を第１志望とする生徒**。（私立、国立も同様）

【 一般推薦 】
○　**全日制ではほとんどの学校で行われている。**
○　**検査**
- **原則として、志願者全員に個人面接を実施。**
- **集団討論は必要と判断する学校で実施。**
- **小論文または作文、実技検査、その他学校が設定する検査は、それらの中から各学校が１つ以上を選んで実施。**
- **調査書点のほか、個人面接、集団討論、小論文または作文、実技検査、その他学校が設定する検査の各点数を総合した成績で選考する。**

【 文化・スポーツ等特別推薦 】【特別推薦(理数)】
○　**実施する学校としない学校がある。募集人員は、一般推薦の募集人員の内に含まれる。**
○　**検査**
- **個人面接または集団面接及び実技検査を実施する。作文など、その他の検査を実施する場合は、各学校で内容を定める。**
- **調査書点のほか、個人面接または集団面接、実技検査及び各学校が定めたその他の検査の各点数を総合した成績で選考する。**

○提出書類：推薦書（一般、文化・スポーツ、理数）… 中学校で作成・高校へ送付
入学願書 … 本人作成（インターネットの出願サイトに入力）
入学考査料 … 全日制 2,200 円（事前に払込）
調査書 … 中学校で作成・高校へ送付
自己 PR カード （面接の資料）… 本人作成
※特別推薦（理数）は、科学分野等の研究に関するレポートも必要

（４）推薦に基づく入試の注意点

○　**生徒、保護者ともに、志望する高等学校の教育方針や校風などを理解し、その高校を第一志望とし、求められる資格・基準・条件を満たしていることが前提となります。**
○　**志願者は各学校が定める「本校の期待する生徒の姿」という冊子をよく読んで意思を明確にし、自己 PR カードを作成してください。各教室に置いてあります。（東京都教育委員会のＨＰにも掲載されています。）**
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/20260916_r9_28
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/20260916_r9_29

○ 推薦入試を希望する場合は、校内の推薦委員会で審査します。中学校長による推薦となるため、人物、生活態度、学力及び学習への取組について、その生徒が推薦に値すると判断できる状態であることを前提とします。(参考：三鷹市立第三中学校推薦基準)

○ 推薦入試決定後、生活の乱れや学習意欲の低下などがないよう、生活面・学習面などにおいてさらに自覚をもって過ごすことが必要となります。

○ 出願後、志望校の変更は一切できません。また、受検を辞退したり、合格後に入学辞退したりすることは認められません。

○ 推薦入試で不合格だった場合、学力検査による入試（一般入試）を受けることができます。

（５）学力検査に基づく選抜（第一次・分割前期募集）（全日制・定時制）

○ 定時制高校の中には、あらかじめ募集人員を分割し、第一次募集（分割前期）と第二次募集（分割後期）の２回に分けて募集を行う学校があります。また、第一次募集の結果、入学手続人員が募集人員に達しない学校のみ第二次募集を行います。

○ 保護者と同居していて、都内に住所を有し、入学後も引き続き都内から通学することが確実なことが応募資格です。

出願方法：１校１コースまたは１科（１分野）に限り出願する。志望する同一の高校内にある同一の学科内に２科（２分野）以上ある場合は他の科（分野）に志望順位を付けて出願できる。

○ 提出書類：入学願書―本人作成（インターネットの出願サイトに入力）
入学考査料―全日制 2,200 円、定時制 950 円（事前に払い込む）
調査書―中学校で作成・送付
自己 PR カード（面接の資料）―面接実施校の出願者のみ提出／中学校から送付
中学校英語スピーキングテスト個人レポート（都立高校提出用）
－学力検査で英語を実施しない学校は提出不要
中学校から送付

※ 出願に関わる書類は、基本的に中学校で配布します。昼夜間定時制、チャレンジスクールなど高校独自の書類を提出する場合は、各自で受検する学校に取りに行きましょう。（ＨＰ上でダウンロードできる場合もあります。）

（６）志願変更について（取り下げ・再提出）

○ 入学願書提出後、１回に限り志願校を変更することができます。ただし、志願変更先の学校には制限（全日制から定時制への志願変更はできないなど）があるため、注意が必要です。

○ 出願締切後に、倍率等が東京都教育委員会の HP や新聞に掲載されます。志願変更を考える場合は、あらかじめその可能性を担任に伝えてください。

○ 本年度の取り下げ日は２月 10 日なので、当日私立受験がある生徒は保護者に依頼します。この場合は保護者と受検者の関係がわかる書類（住民票等）が必要となります。

（７）学力検査に基づく選抜（分割後期・第二次募集）（全日制・定時制）

○ 第一次募集の結果、入学手続者数が募集人員に達しない都立高校が、その相当人員について第二次募集を行います。
○ 第一次募集、分割前期募集の合格者は応募できません。(ご注意ください！)
○ 第一次募集と同様に志願変更ができます。
○ 検査教科は全日制３教科、定時制３教科＋面接だが、学校によって作文や実技があります。

（８）学力検査に基づく選抜に関する注意点

○ 第一次募集では、各校５教科を共通問題で実施する学校がほとんどですが、３教科を自校作成問題で実施する学校があります。共通問題よりも難易度が高いです。
○ 共通問題はマークシート方式で行います。（一部記述式）※マークミスに注意。
○ 一部の学校では、特定の教科の配点に比重をかける傾斜配点を行います。
○ インフルエンザ等学校感染症罹患者等に対する追検査が実施されるのは、第一次募集のみです。第一次募集を受けられなかった生徒に対して、分割後期募集・第二次募集と同日程で実施します。→下記（９）
○ チャレンジスクールやエンカレッジスクールなど学力検査を実施しない多様なタイプの学校に関しては『令和９年度東京都立高等学校に入学を希望する皆さんへ』を参照してください。また、夏休み中に実施した「チャレンジスクール・通信制高校等説明会」の資料も参考になります。ご希望の場合は３学年教員にお声がけください。

（９）インフルエンザ等学校感染症罹患者等に対する追検査について

○ 学校感染症の罹患等により一次検査を欠席し、追検査を希望する場合は、すぐに中学校に連絡をし、相談してください。
○ 中学校へ連絡後、追検査の措置申請書の提出をお願いいたします。
○ 追検査では、国語・数学・英語の３教科の学力検査と各学校で定める検査を組み合わせて実施します。
○ 追検査で使用する学力検査問題は、分割後期募集・全日制第二次募集と同一のものです。
○ 一次試験では面接を実施しない学校で、追検査では面接を実施する場合があります。その場合は追検査の出願の際に自己 PR カードが必要になります。

５　特別支援学校高等部の入学相談及び入学者選考について

都立特別支援学校高等部の入学相談選考の日程は次のとおりです。

◎都立特別支援学校高等部普通科の入学相談

視覚障害：　令和９年１月 27 日（水）
聴覚障害：　令和９年１月 28 日（木）
肢体不自由：令和９年１月 27 日（水）
知的障害：　令和９年２月　２日（火）
（分教室）：令和９年２月　３日（水）
病　　弱：　令和９年１月 27 日（水）・１月 28 日（木）のいずれかの日

◎都立中高一貫型聴覚障害特別支援学校高等部普通科の入学選考
前期：令和８年 12 月　４日（金）
後期：令和９年　１月　28 日（木）

◎都立知的障害特別支援学校高等部就業技術科及び職能開発科の入学者選考
就業技術科：令和８年 11 月 14 日（土）（適性検査・面接）
職能開発科：令和８年 11 月 14 日（土）（適性検査）
12 月　５日（土）（面接）

６　本校の推薦基準

以下のような中学校生活を送っている生徒を推薦する。

なお、一時的な事象のみで判断せず、継続的な状況をもって判断する。

（１）学習態度が良好で、きちんと授業を受けている生徒

（２）基本的生活習慣を身につけており、出席状況が良好である生徒

（３）委員会や係活動、学校行事、部活動、ボランティア活動などに積極的に参加している生徒

（４）社会や学校のルールを守って生活している生徒

（５）合格後、進学後も、推薦された者としてそれにふさわしい学校生活を送ることのできる生徒